

考古学特殊講義1B－ I

科目ナンバリング ARC-201

選択必修 2単位

阿部 朝衛

1. 授業の概要(ねらい)

現生人類の社会の維持は生物的文化的な再生産を基盤とするが、後者では子ども期の養育環境・学習過程が重要な意味を持つことは明らかである。これは人類の出現以降の進化的産物である。すでに猿人・原人の子どもの生育環境などの検討を行っているので、今年度はネアンデルタール人、デニソア人などの旧人の子どもの諸環境・学習過程を、猿人・原人・新人の考古学資料との比較によって、その特殊性や普遍性を考察する。春期では、人類進化の概要、旧人の生物学的・文化的特殊性を検討する。秋期では、旧人の石器製作に関わる技能に焦点を当てて子どもの学習過程を検討し、春期の検討結果を含めて、旧人の子どもの生育環境・学習過程を総合的に考察する。

2. 授業の到達目標

春期では下記の①・②を主に求め、秋期では③・④を求める。秋期の講義内容は春期の講義内容を前提としているので、秋期のみ履修では③・④に到達することは困難である。

- ①人類進化の概要を理解できる。
- ②人類進化上での子ども期の重要性が理解できる。
- ③人類進化上、子ども期・学習期間の延長、それに伴う社会的な投資の増大が起きていることを理解できる。
- ④旧人段階での子ども期の特殊性・普遍性が理解できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業時間の最後で行うテストによって判断する。授業途中で講義内容の難易度をアンケート等によって確認し修正を加えるので、テストの解答を恐れる必要はない。出席し、講義に集中することは当然のことである。

4. 教科書・参考文献

参考文献

印東道子 人類の移動誌 臨川書店
中尾 央 人類進化の科学哲学 名古屋大学出版会
ステレルニー 進化の弟子 勁草書房

5. 準備学修の内容

講義の都度、必要な課題を提示する。

6. その他履修上の注意事項

文化遺物の説明時に、考古学実習室に保管している石器やその材料などの重量物を教材とする場合、考古学実習室に移動することもある。その際は、事前に説明を行うので、了解を願いたい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|------------------------|
| 【第1回】 | 導入：講義の目的・内容等の概要の説明 |
| 【第2回】 | 人類進化の概要 |
| 【第3回】 | 人類進化上における子ども期の長期化とその意義 |
| 【第4回】 | 人類進化と文化進化(猿人から原人) |
| 【第5回】 | 人類進化と文化進化(原人から旧人) |
| 【第6回】 | 人類進化と文化進化(旧人から新人) |
| 【第7回】 | 形質からみた旧人 |
| 【第8回】 | 遺伝学からみた旧人 |
| 【第9回】 | 旧人の出現・展開・絶滅 |
| 【第10回】 | 集団構成と子どもの位置 |
| 【第11回】 | 墓制と子ども |
| 【第12回】 | 安置・埋葬・解体された子ども |
| 【第13回】 | 介護されたこども |
| 【第14回】 | カニバリズムの対象としてのこども |
| 【第15回】 | まとめ、試験 |